

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300037		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり山手		
所在地	北広島市山手町6丁目4番		
自己評価作成日	平成27年7月20日	評価結果市町村受理日	平成27年8月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0191300037-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年8月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念の「地域の人々とのふれあいを大切に、たくさんの笑顔と安らぎのある暮らしを、送っていただけるよう支援します」をモットーに入居者様には、個々の生活リズムに合わせて送って頂けるよう支援し、日々の気分転換に午前ラジオ体操と歌レク、午後は下肢運動と歌レク等を行い、また、毎月外出レクにて、ドライブ、水族館、カラオケ等、普段と違った雰囲気を楽しんで頂けるようにしています。地域貢献活動にて、市内の小学校に「車イス体験」の指導員ボランティアとして参加しています。今年のみのもり山手5周年を記念して、ホームでの「運動会・昼食会」を開きました、御家族様も参加され、入居者様、御家族様、スタッフと和気あいあいと盛り上がり、入居者様の普段見られない様子や御家族様、お帰り際には、「楽しかったよ」「ありがとう」など嬉しいお言葉を頂きました。これからも入居者様、御家族様と一緒に成長していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみのり山手」はバス停から数分と近く、自然の豊かな住宅地にある2ユニットの事業所である。隣りにはスーパーマーケットと公園があり、散歩や買い物の利便性に恵まれている。平成22年7月に開設した事業所は地域との関係作りを積極的に進めている。町内会の花壇整備などに利用者も参加し、夜間を想定した避難訓練には町内会や近隣の参加を得ている。昨年は職員が小学校に向いてボランティアで「車イス体験」を指導している。管理者は利用開始時に運営推進会議への参加を薦めて、家族と共に利用者の暮らしを支える体制を作っている。会議には4人以上の家族参加があり、テーマの工夫で勉強会も取り入れている。昨年は家族の意向に沿って看取り介護を行い、前後に勉強会をもち職員の自信に繋がっている。常に職員間でケアについて話し合い、利用者担当職員を中心にモニタリングを全職員で行い、介護計画に沿って個別支援を実践している。希望を取り入れての外出行事や散歩、買い物などに出かけることが多く、誕生日には外食や好みの献立で食事を楽しんでいる。職員間に理念が浸透されており、個々の希望や状態に合わせて利用者の笑顔のある暮らしを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(1階つつじ館 アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念「地域の人々とのふれあいを大切に、たくさんの笑顔と安らぎのある暮らしを、送っていただけよう支援します。」を毎朝朝礼で唱和しています。	半年に1回は法人の理念と福祉三原則、また事業所理念を書き出す機会をもち、職員間に理念が浸透している。行事や外出レクリエーションなどで季節感を味わい、地域住民と触れ合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの避難訓練の際、町内会の方も参加して頂き訓練を行っています。又、お散歩の際などに町内の方とのコミュニケーションを計っています。	町内会の花壇整備などに利用者も参加している。地域住民のボランティア訪問で、フラダンスやアコーディオンなどの演奏を楽しんでいる。子供と触れ合うことが少ないので、学童保育なども含めて子供との交流を検討したい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の小学校に「車イス体験」の指導員ボランティアとして参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開き、毎月の行事や入居者様の様子などを報告し、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、市の担当職員、御家族様に参加され、皆様からの意見交換を頂きサービス向上に努めています。	昨年は消防署員によるAED講習会を行い、また転倒防止、食事について、認知症への理解などミニ勉強会も取り入れている。全家族が年に1回以上は参加し、交代で4名の参加が得られている。議事録は全員に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、北広島グループホーム部会にホーム長出席し情報交換を行っている。	市の担当者は運営推進会議委員で常に相談できる関係を築いている。書類や制度で分からない時は市に出向いて確認することもある。グループホーム部会の研修会には職員も参加しケアに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルをいつでもスタッフが確認できるようにスタッフルームに常備し、意識向上を計っている。	身体拘束禁止の具体的な行為11項目に、言葉の抑制を追加して事業所内に掲示している。事故報告などの機会に禁止行為を再確認して理解を深めている。外に出たい様子を抑制するような言葉がけがないよう注意し合い丁寧に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内に虐待防止に関わる委員会があり、各事業所で虐待が無いかに注意をはらっている。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講演に参加したり、その内容について皆で話し合い理解出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様とは、常にお話が出来よう、信頼関係に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、行事などの参加を呼びかけ、ご意見、要望などを話しやすいように心がけている。	毎月の通信送付時に個々にお便りを添えて報告している。事業所5周年記念やバーベキューなどに家族も参加し、来訪時には意向やケアの提案を聴いている。更に家族の些細な思いを把握できるように個別の記録化も検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、ユニット会議を開く際には、ホーム長から運営の状況を報告、説明し、職員に周知している。	内容に応じて会議をもち、利用者担当の各職員から意見を聞き、主にケアについて意見を交換している。管理者は年に2回の個人面談で、個人目標達成度や資格取得を確認し、個人的な相談に乗り勤務表などの希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は自己目標を定め提示し、それを踏まえて年2回の自己評価、ホーム長面談を実施。個々の仕事について反省、振り返りの機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社より研修の機会を設けている。勉強会、研修会などで個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの管理者集會に参加し、交流、訪問などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が、困っていることや不安になることがないように、常に笑顔で言葉をかけ傾聴し、コミュニケーションをとる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にアセスメントを行い、家族が困っていること、不安なこと、要望を聞きとるようにし、入居後も信頼できる関係でいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に本人、ご家族様の意見を聞き、本人を尊重したケアが出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを、やっもらい、声かけし、手伝ってもらえることを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、電話、面会時などに現在の生活の様子などを説明し、ご家族様から話や要望を聞き、関係を深める。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙で連絡が取れるようにし、友人知人が立ち寄れるようにしている。本人が行きたい所に行けるよう支援する。	知人、友人が来訪した際に利用者と散歩することもある。家族の同行でお墓参りや美容室に出かけている。入居後も、可能な限り馴染みの方との交流を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話やコミュニケーションをとるようにスタッフが橋渡しを行い、入居者同士が仲良くなれるよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様、御家族様の相談など、いつでもホームに連絡あっても良いように受け入れ態勢は出来ています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話など、ご本人の希望や、意向を把握しケアに努めています。	会話や利用者の動作から思いを汲み取り、意向を介護計画に反映させている。生活歴など暮らしの情報を収集しているが、情報の蓄積が全体的に少ないように見受けられる。	馴染みの関係や場所、好みの変化などを追記するとともに、年に1回は全員を更新して現状に即した情報の蓄積を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際、御家族様に これまでの生活歴をお聞きし、又 ご本人から昔のお話などを伺いながらサービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で支援の方向性を考える時に、共有できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し、プランと現状を評価し、現状にあったプランに随時変更している。	担当職員は全職員が記録した意見を収集してモニタリングを作成し、介護計画を3か月毎に見直している。今後は本人・家族の意向を介護計画書に記載し、全員の書類を分かりやすく統一して整備する意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や普段の生活での気づきなどあれば各居室担当が発信し、他スタッフの意見を交えて介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応えられるよう、本人の体調管理などを行い、御家族様との外出する際には、ご家族様との連携を取り、予定の決定、変更などを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様一人一人のニーズに応じて、気分転換も計り、近くの床屋や買い物などの支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は月に2回来て頂き、定期検査も行っていきます。又、個人の掛かりつけの医療関係については通院介助を行っています。	利用開始時に受診先を確認し、ほぼ協力医の訪問診療を受けている。専門的な他科受診は、以前からのかかりつけ医を継続し、市内での通院同行を事業所に対応している。必要に応じて受診結果を電話で報告している。	

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師が入り、体調の変化、受診、普段の様子を伝え、心配な点は相談して指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医との情報交換はその都度行っている。24時間相談に乗っていただける関係になっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業者内の看取りケアをおこなったスタッフより、その時の状況やスタッフの気持ちなどの話を聞いて勉強会を開いています。	状態の変化に応じて主治医、家族と方針を確認している。昨年は「重度化・看取りに関する指針」の同意書を得て看取りを実施している。法人内事業所で体験した職員を講師に招いて学び、看取り後も振り返りを行い実践に活かせるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所に緊急時の対応マニュアルが用意され、すぐに確認および対応出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中だけではなく、職員が少ない夜間を想定した避難訓練を行い、町内会の方にも参加して頂いている。	消防署立会いで夜間を想定した避難訓練には町内会長、近隣の数人が誘導後の見守りで参加している。災害時の各マニュアルを整備し、地震を想定して安全面を確認しているが、具体的な対応は今後検討したい意向である。	地震のマニュアルに沿って、再度安全面を確認するとともに、各ケア場面での対応について話し合うことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の事を尊重し、安心して頂ける言葉遣いを心掛けている。	法人で、入社3か月目に接遇マナー研修を実施している。ホーム長は、命令口調や上から目線での言葉かけがあればその都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、何気ない会話で本人の希望、思いなどを聞き逃さず、自己決定が出来るように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて、声掛けを行い、過ごしやすい環境作りを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った服と一緒に選んで着て頂いたり、お化粧をする入居者様には声をかけて行って頂いている。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さまの好みや苦手なものを把握して献立を作成している。食事が楽しみなものになるよう、職員と一緒に調理の下ごしらえや盛り付け、後片付けを行っている。	ユニット毎に職員が献立を作成し、各利用者の誕生日に外出に出かけたり好きな献立にしている。庭でバーベキューをしたり、弁当を作って楽しんでいる。おやつと一緒に作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の管理、食事量と水分のチェックを行い、栄養バランスや形態などに配慮して、一人ひとりに応じた支援をしている。水分が不足な方には、好みの飲み物を提供しながら声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前に口腔体操を行い、食後は口腔ケアを行っている。習慣化されているため、自ら行う方も少なくない。介助が必要な方も声掛けをしながら、ご自分でうがいをして貰い、義歯は毎日洗浄液に浸け、清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックをしてパターンを把握している。本人の状態に合わせ、使用する物品の検討や時間の調整を行い、トイレでの自立に向けた支援を行っている。	利用者の3分の1程は自立している。立位が困難な利用者以外は、昼夜共にトイレでの排泄を支援している。身体状況に応じて、夜間のみポータブルトイレを使用することもある。羞恥心に配慮して声かけを行い、入り口にカーテンを取り付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や乳製品を提供し、運動への働きかけの他、腹部マッサージを行っている。また、医師と連携を図りながら、下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番、湯の温度、時間など一人ひとりの好みに合わせて決めている。利用者ごとに湯を入れ替え、好みの入浴剤を使って、楽しく入浴できるように努めている。	午前から午後までの時間帯で毎日入浴を行い、利用者毎に浴槽のお湯を入れ替えている。希望に応じて毎日の入浴や同性介助などにも対応している。入浴を拒否する時は、会話を工夫しながらスムーズな入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握して、昼夜を問わず個々のタイミングで休息できるよう支援している。夜間眠れない方には、話を傾聴したり、安心できる環境を整えるよう努め、日中の活動量を無理なく増やすす工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を一冊にファイルし、職員間で共有している。変更があった際はパソコンの特記事項や申し送り周知し、症状に変化があれば、記録に残している。服薬はダブルチェックを行い、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さま一人ひとりの得手不得手や生活歴を把握し、楽しみのある生活を送れるよう支援している。ご本人が希望する家事や歌詞の作成などが積極的に出来るよう支援している。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や買い物に出掛けたり、月1度の外出レクを企画し、季節に適した場所へ出掛ける。	天気の良い日は、近くの公園に出かけたり近隣を散歩している。利用者の身体状況に応じて、えこりん村や新千歳空港、坂本九記念館、水族館などに数人ずつ出かけている。個別の外出やカラオケ、冬季も大型ショッピングセンターなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様より、お預かりした お小遣いは大切に預かり、必要時にはいつでも購入出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば いつでも連絡が取れるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の立場に立ち、過ごしやすい環境かを常に感じ取り、暖房、空調、換気を行っている。朝と夕方室温と湿度をチェックしている。	食堂を中心に対面式のキッチンや事務所、居室があり、清潔感のある広々とした造りになっている。手作りの日めくりや観葉植物、食卓テーブルには季節の花が飾られており家庭的な落ち着いた室内になっている。陽射しはロールカーテンで調節して、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席の他ソファを置き、入居者様同士でお話をしたり、テレビを観ていただいたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際私物や家具を持ってきていただき、自分の部屋と思えるような心地よさを感じて頂ける様配慮している。	居室には、造りつけのクローゼットがある。使い慣れた机や鏡台、ベッドや趣味の品々などを持ち込み落ち着いたように工夫している。壁には家族の写真や誕生日のプレゼント作品などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、リビング内には手すりが付いており、安全に歩けるようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300037		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり山手		
所在地	北広島市山手町6丁目4番		
自己評価作成日	平成27年7月20日	評価結果市町村受理日	平成27年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階つつじ館 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0191300037-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年8月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階かえで館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念として、『地域の人々とのふれあいを大切に、たくさんの笑顔とやすらぎのある暮らしを送って頂けるよう支援します。』と掲げ、朝礼時に唱和し共有している。また、地域住民の方から行事などの際、ボランティアをして頂いている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域のゴミ拾いや公園の花壇の手入れに参加している。他にも、避難訓練にも、地域住民の方に参加して頂いている。朝、夕の挨拶、世間話など楽しんでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の方々に対する理解を深める講話や、実際にホームで行っているケアの内容を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの日常の出来事、行事や事故報告、入居者様の様子を報告し、質問意見を取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、市役所の担当の方にホームの実情などを伝えている。他にも、市のGHのホーム長会議に参加し、連絡を密に取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内での身体拘束の研修や、ホーム内で勉強会を開き、職員全員で共有している。職員はお互いに何が身体拘束になるのかを意識し声を掛け合いケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内での虐待防止委員会の研修や報告をホームで活用し、情報を共有している。職員は、虐待の防止を常に意識し、ケアに取り組んでいる。ホーム内に虐待の行為になる文章を掲示している。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があると参加し学んでいる。青年後見人に関しては現在、入居者様に後見人がついてる方がおり身近で学ぶ事が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも家族様と密に連絡をとり、疑問点やわからない事が無いか伺い、それに対し説明対応を行って相互理解に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事や運営推進会議への参加の声かけし、意見要望、苦情を伺い、会議報告書をホーム内に掲示し、スタッフ他外部者にも分かるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議の際、管理者から会社の方針を聞くなどの機会を設け、その際、スタッフの意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回社内自己評価を行い、自分を振り返りホーム長と面談を通して各自が向上心を保つよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修制度で介護について学んだり、ホームで職員同士の勉強会を設けたり、市の研修にも積極的に参加出来る機会を設け、ホーム長は職員に出席を促しをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のGH管理者の会議に出席し、各GH間で交流として職員が他ホームに見学で訪問したり、受けたりする機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他入居者様も交えながら談笑する時間を設けている。また、迷っていたり不安な事が起きていないか話せる環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を把握する為、入居前に面談を行ないアセスメントをとり何が必要か一緒に考え、入居後もモニタリングを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さまのニーズを把握し、その方に合った支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持って頂く為、掃除や、食事の支度、片付けなどを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も、レクに参加して頂いたり、面会時は、一緒にお茶を飲みながら、普段の生活状況を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との連絡は、いつでも取れる様にし、来所時はゆっくりとお話できる環境を提供している。レク等で本人が行きたい処、懐かしい場所などを聞き出来るだけ添えるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクを一緒に行ったり、食事やお茶のみなどをしながら談笑出来る環境を整え、スタッフが仲介に入り、話題の提供などを行っている。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様から連絡があったり、相談事がある時は知っている情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたい等の要求の場合は家族様が可能であればお願したり、外へ出かけるなど気分転換をしていただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしく、身体を動かすのが好きな方には、掃除や台所のお手伝いをお願いし、歌やお話しが好きな方には会話を持つようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の確認、申し送りをして現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開き、個々に合ったケアを行う様話し合いをし、統一したケアを行っている。家族様のニーズも聞き取りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日報の特記事項を、職員全員が読み、申し送りをしている。又、ユニット会議を開き話し合いの場を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	足の浮腫みに対しメドマ、パワトレナーを設置しています。家に帰りたい等は家族様と相談したり、出来ない時はホームでの外出などの工夫を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体調がよければ、花壇の花植えや草むしりに参加し散歩の際は近所の方と挨拶や会話をたのしんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問時、各居室にて、診察を受け、本人に体調の様子を聞いています。スタッフ付き添い一緒に話を聞いています。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に、訪問看護師が入り、日常生活の様子や、受診結果などを報告し、医療面の疑問や悩みについて、アドバイスや助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問時、受診時は細かく情報を伝え、入院時はその時の状況をサマリーに記入し提供します。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年、看取りを行いました。普段から家族様とは看取りの話しをしています。病院とは、重度化した場合のアドバイスを頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員間でシミュレーションを行ったり、緊急時の優先順位などを把握する話し合いを行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し避難訓練を町内会の方参加してもらい行っています。町内会の連絡網も頂いています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ交換時は居室のドアを閉める、トイレの声をかけは、他の人に聞こえないよう配慮し言葉を変えて誘うなどの工夫をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で本人の希望を聞きとったり、外出の場合などは、何処が良いかなど資料を見て貰うなどの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、自分のペースで離床してもう、就寝時もテレビを見たり寝たいと思ったら寝るように本人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意思を尊重しながら一緒に服を選んだり、お化粧品や髭剃りなどが出来る様に声掛けをしたり、介助を行っています。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに配慮した献立作りを行っている。入居者様と食事の下ごしらえ、盛り付けや食後の食器拭きを職員と一緒にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの持病に合わせたカロリーや塩分の調整を行い、食べやすい形状にし、水分量の記録を確認し最低限の摂取量の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状況を把握し自力で出来る方にも職員が最後に確認し仕上げを行ない、自力で出来ない方には介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄ペースを把握し記録の確認を行い、時間での声掛けやトイレへの誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や乳製品等を提供したり、下肢運動や歩行運動を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行ないご本人の意思の確認後入浴していただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	点灯されたままやテレビを見ながらだったり等一人ひとりの生活習慣を尊重し安心して入眠出来る様配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の詳細を把握をし、疑問があれば主治医に相談して理解するように努めています。職員同士で確認し確実な服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が張り合いや喜びを持てるように家事の手伝いや歌レクまたは気分転換の為の散歩、外出レクなどを行っています。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やお買い物など希望される時の支援体制を整え、外出レクでは職員同行で外食やカラオケ等希望に合わせた計画を立てています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり出納帳と領収書で管理を行っています。希望される物はその都度購入出来る様対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など本人の気持ちに添えるようにしている。家族様が介入の際は確認をとって本人に渡すようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソリューションでの湿度管理や温度管理、換気等に気を配り快適に過ごし頂くように配慮しています。入浴の際には浴室と脱衣場との温度差が無いよう配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状態等を考慮し食席の配置を行ない食席は混乱しないようにテーブルに一人ひとりの名前を着けています。利用者様同士が気兼ねなく会話出来たり、ゆっくりとテレビを見たりとソファも配置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた物や気に入ってる品々を置かれる事で安心して過ごしていただける居住空間作りを行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内を自由に安全に移動出来る様手すりの設置がしてあります。部屋が分かるようにご自分の暖簾を掛けたり、部屋のドアに表札をつけています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム みのり山手

作成日：平成 27年 8月 21日

市町村受理日：平成 27年 8月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	馴染みの関係や場所、好みの変化などを追記するとともに、年1回は全員を更新して現状に即した情報の蓄積を期待したい。	個々の情報をセンター方式へ記入。	居室担当者が家族様・本人より聴き取りを行い、記入していく。担当者の記入後、全職員で記入していく。	1年
2	35	地震のマニュアルに沿って、再度安全面を確認するとともに、各ケア場面での対応について話し合うことを期待したい。	地震時の対応について職員への周知。	地震対応マニュアルを全体会議にて話し合う。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。